

〔国際会議開催〕

申請者	岡山大学大学院 自然科学研究科 准教授 紀和 利彦	2175007
国際会議名称	The 4th International Symposium on Microwave/Terahertz Science and Applications	
開催期間	2017 年 11 月 19 日～23 日	
開催場所	岡山コンベンションセンター (岡山県岡山市北区)	
申請者の役割	大会委員長	

概 要：

本会議では、世界的に著名な第一線の研究者を招聘し、マイクロ波からテラヘルツ波にわたる電磁波の最新の研究成果に関する情報交換を行うことによって、東アジア・欧米を巻き込んで全世界的な国際協力関係を強固なものにすることを目指し開催した。

議題とする周波数領域利用可能性は、超高速通信、非破壊・非接触・非侵襲のイメージング診断、医薬・バイオ応用など多岐に渡り、人類の発展へ大きく貢献できる。特に、テラヘルツ光科学は現在最も進展が著しく、高強度光源、半導体カスケードレーザー等の先端的な光源による非線形光学、半導体物理学、光物性などの基礎研究が盛んに行われるとともに、未来を担う高速通信技術や超高速演算の基盤技術としても注目されている。このような急速な発展から一流の科学者が一同に会する機会を設け、人間にとって最適な科学技術とすることは非常に重要である。

今回の会議では、ヨーロッパ材料科学学会 (E-MRS) と協働し、光、X 線を用いたナノ構造計測に関する国際会議 OptoX-Nano とジョイントすることで、科学技術の相互理解を進めた。

会議は岡山市内の岡山コンベンションセンターにおいて、2017 年 11 月 19 日から 23 日までの 5 日間開催、3 つの平行セッションを設け、220 名が参加した。その内、外国人研究者は 19 カ国、99 名で有り、全体の 4 分の 1 以上が北米・ヨーロッパの大学・研究機関から来日する非常に国際色豊かな会議となった。

本大会の様子は、質の高いテラヘルツ波の会議として、Nature Photonics 誌 News&View (Nat, Photo. 12, 128-130, 2018) で紹介された。